



源氏物語図屏風(相国寺所蔵)

都城島津伝承館特別展 島津荘誕生千年記念展

しまづ 島津荘 のしょう

～平安・鎌倉期における南九州と都城～

平安時代後期の万寿年間(1024～1028)に誕生した日本最大の荘園、島津荘。本展では、島津荘の誕生千年を記念し、平安から鎌倉期の島津荘を巡る朝廷や貴族、幕府と南九州や都城地域との関わりについて、貴重な文化財を紹介しながらひもときます。

◎問い合わせ 都城島津邸 ☎23-2116

島津荘の起源

古くから、島津荘は「平季基が撰閑家へ寄進し、誕生した」と言われてきました。しかし、荘園に関するさまざまな昨今の研究によってその解釈が見直されてきています。

都城では、当時の人々が開発によって基礎を作った土地の利権を守るために、大宰府役人平季基と、大宰大式で撰閑家の家司であった藤原惟憲の仲介により同家にその土地を寄進し、誕生したのが島津荘です。荘園誕生の根底には、自分たちの土地を守りたいという地元の人々の強い思いがありました。

時代とともに変化する管理体制

鎌倉幕府は、島津荘の管理を担う地頭職として、撰閑家にゆかりの深い惟宗忠久(のちの島津忠久)を任命し、撰閑家への年貢収納や荘域内の治安維持を委ねました。

元寇後に幕府の体制が揺らぎ始めると、荘園の事実



「ジスモンダ」 1895年



「スラヴ叙事詩展」 1928年

19世紀末のヨーロッパで流行した「アール・ヌーヴォー」の代表的な画家・デザイナーとして時代を超えて愛されるアルフォンス・ミュシャ。今回の特別展では、ミュシャ作品の世界的コレクターである尾形寿行さんの「OGATAコレクション」を中心に、珠玉の作品約500点を紹介します。

◎問い合わせ 市立美術館 ☎25-1447

画家を志し、パリで挿絵の仕事をして生計を立てていたミュシャに転機が訪れたのは、34歳の時。急きょ引き受けた大女優サラ・ベルナルの公演ポスター「ジスモンダ」が大評判となり、彼は一躍時代の寵児となります。50歳で祖国チェコへ帰国したミュシャは、チェコやスラヴ民族の歴史を描いた超大作「スラヴ叙事詩」の制作にその後半生を捧げました。

本展では、ミュシャの生涯をたどる充実の内容で、その多彩な芸術の魅力と画家としての思いに迫ります。
※「スラヴ叙事詩」は作品画像をスライドで紹介します

特別展の概要

- 会期 10月21日(土)～12月3日(日) ※月曜日は休館
- 開館時間 9時～17時 ※入館は16時30分まで
- 観覧料 一般千円(700円)、高校・大学生500円(300円)、中学生以下無料

※(一)内は前売券や20人以上の団体、65歳以上などの割引料金。障がい者手帳やアプリの提示で本人とその介助者無料。11月3日(金・文化の日)は無料。11月19日(日・家庭の日)は高校生以下同伴の家族無料

● その他 会期中は尾形さんによるコレクタートークやネイルデザイナーによるワークショップなど、さまざまな関連イベントを実施します。詳しくは、ホームページを確認ください。



上の管理者である領家と幕府が任命した地頭との間に衝突が起き始めます。その中で、領家の影響力が次第に低下。また、貨幣経済や流通の進展に伴い、荘務を担える人材も増加したことで、新たな荘園管理体制が生まれていきました。

日向の国司が機密情報を守るために書生を殺害する説話が収められています。荘園が拡大していく時期に地方行政機関が存在していたことがうかがえる重要な史料です。

企画展の概要

- 会期 10月14日(土)～11月26日(日) ※月曜日は休館
- 観覧料 一般400円(300円)、高校・大学生300円(200円)、中学生以下無料

※(一)内は20人以上の団体料金。11月3日(金・文化の日)・23日(木・島津発祥まつり)は観覧料無料

幕府方と荘園方の論争があったことをうかがわせます。

● 主な展示史料
【国宝 今昔物語集巻29】(京都大学附属図書館所蔵) 日本最大規模の説話集。全31巻で本書が最古の鈴鹿本(写本)です。本巻には、

